

令和 8 年度 歴史総合＋世界史探究 (03コア)

試験開始の合図があるまでに、次の注意をよく読んで、間違いのないように受験してください。

1. 試験開始の合図があるまで冊子を開かないでください。
2. この冊子は問題14ページです。別に、マークによる解答用紙~~マーク~~、記述による解答用紙~~記述~~各1枚をセットで配付します。
3. 試験開始の合図があったら、問題のページ数を確認し、解答用紙~~マーク~~・~~記述~~をミシン目で折ってていねいに切り離し、すべての解答用紙に受験番号を記入してください。
解答用紙~~マーク~~の受験番号欄は、右を参考に記入してください。
4. 問題・解答用紙に落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所がある場合には申し出てください。
5. 解答用紙~~マーク~~はすべて HB の黒鉛筆(シャープペンシル可)で記入することになっています。答えを訂正する場合は、プラスチック消しゴムでよく消して、訂正してください。プラスチック消しゴムを忘れた人には貸与します。
6. 解答用紙~~記述~~は、HB 以外の黒鉛筆(シャープペンシル可)や黒・青の万年筆またはボールペンを使用してもかまいません。
7. 文字ははっきり、ていねいに書いてください。
8. 解答用紙の点数欄には何も記入しないでください。
9. 使用していない解答用紙は机の上に裏返しにしてください。

例 受験番号が
0 6 3 7 のとき

受験番号				
千位	百位	十位	一位	
0	6	3	7	
0	●	0	0	0
1	①	①	①	①
2	②	②	②	②
3	③	③	●	③
4	④	④	④	④
5	⑤	⑤	⑤	⑤
6	⑥	●	⑥	⑥
7	⑦	⑦	⑦	●
8	⑧	⑧	⑧	⑧
9	⑨	⑨	⑨	⑨

03コア

良い例	悪い例

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークすること。

受験番号				
	千位	百位	十位	一位
0	0	0	0	0
1	1	1	1	1
2	2	2	2	2
3	3	3	3	3
4	4	4	4	4
5	5	5	5	5
6	6	6	6	6
7	7	7	7	7
8	8	8	8	8
9	9	9	9	9

I A

	①	②	③	④
(1)	①	②	③	④
(2)	①	②	③	④
(3)	①	②	③	④
(4)	①	②	③	④
(5)	①	②	③	④
(6)	①	②	③	④
(7)	①	②	③	④
(8)	①	②	③	④
(9)	①	②	③	④
(10)	①	②	③	④

II A

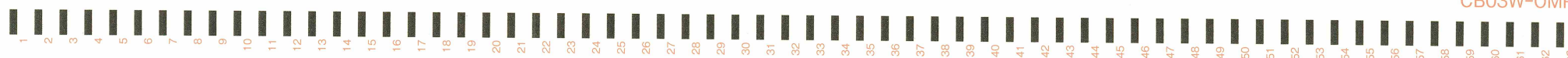
	①	②	③	④
(1)	①	②	③	④
(2)	①	②	③	④
(3)	①	②	③	④
(4)	①	②	③	④
(5)	①	②	③	④
(6)	①	②	③	④
(7)	①	②	③	④
(8)	①	②	③	④
(9)	①	②	③	④

I B

	①	②	③	④
(1)	①	②	③	④
(2)	①	②	③	④
(3)	①	②	③	④
(4)	①	②	③	④
(5)	①	②	③	④
(6)	①	②	③	④
(7)	①	②	③	④
(8)	①	②	③	④
(9)	①	②	③	④
(10)	①	②	③	④

II B

	①	②	③	④
(1)	①	②	③	④
(2)	①	②	③	④
(3)	①	②	③	④
(4)	①	②	③	④
(5)	①	②	③	④
(6)	①	②	③	④
(7)	①	②	③	④
(8)	①	②	③	④
(9)	①	②	③	④



CB03W-OMR

問題はこのへ。　　じつじつじつじつ

問題は次のページより始まります。

I 次のA・Bの文章を読み、それぞれ(1)～(10)の設問について〔 〕内の語句から最も適切と思われるものを選び、その記号を解答欄にマークしなさい。〔解答用紙 マーク〕 (20点)

A アプレイウスという哲学者がいた。紀元後2世紀に活躍したマダウロス出身の人物である。123年頃の生まれとされているので、五賢帝の3人目、先代の拡大路線から安定路線に転じ、ブリタニアに長城を築いた(1)〔①ネルウァ ②カラカラ ③ハドリアヌス ④トラヤヌス〕帝の治世に生まれたことになる。没年は分かっていない。

マダウロスは北アフリカにあるローマの属州の中の(2)〔①マケドニア ②ヌミディア ③ヒスパニア ④トラキア〕にあった。アプレイウスは、(3)〔①トロイア戦争 ②ポエニ戦争 ③プラタイアの戦い ④カイロネイアの戦い〕に敗れ徹底的に破壊された後に、ガリア遠征に成功して政敵を倒し終身独裁官となった(4)〔①カエサル ②スラ ③アウグストゥス ④ハンニバル〕によって再建され大都市となったカルタゴで教育を受けた。その後、プラトンの学園(5)〔①アゴラ ②アカデメイア ③リュケイオン ④ムセイオン〕があったことでも知られるアテネで学び、また東方にも遊学したという。

アプレイウスはプラトン主義者を自称した。プラトンは(6)〔①ホメロス ②アリストファネス ③ソクラテス ④アリストテレス〕の弟子である。(6)は、アテネとスパルタがギリシアの覇権をかけて戦った(7)〔①ペルシア戦争 ②ペロポネソス戦争 ③テルモピレーの戦い ④マラトンの戦い〕にも歩兵として参戦したこともあった。また(6)は、デルフォイの神託での(6)よりも賢いものは誰もいないという神託を友人づてに聞き、そんな訳はないと人々と対話を重ねた。そして、善美なるものの知は神の知であり、人間である自分は善美なるものについては知らないことを自覚しているだけであり、その自覚という点で他の人よりもマシということで最も賢いのだと神託の意図を理解し、(8)〔①タレス ②ヘラクレイトス ③ピュタゴラス ④プロタゴラス〕に代表されるソフィストを批判した。ソフィストたちは相対主義を採り、善美なるものといった客観的真理はないとし、裁判や集会において論争で勝つための弁論術を教えていた。相対主

義を表すとされる (8) の有名な言葉が、「万物の尺度は人間」である。(6) にとっては尺度はむしろ神であった。弟子のプラトンはハッキリと「万物の尺度は神」との言葉を残している。

プラトンは変化する世界の背後に、善や美といった不変の (9) 〔①イデア ②アルケー ③イドラ ④コイネー〕が存在するとした。私たちのいるこっちの世界はその (9) を分有しているものでできている影のような世界で、本当の世界は (9) の世界であり、その (9) を知ろうとする、神の知に近づくための絶望的ではあるができないと言い切ることも人間にはふさわしくはない、そんな営みを哲学と呼んだのだ。

そのプラトンの考えを受け継ぐアプレイウスは、人間と神の断絶の間を取り持つ、いわば哲学の可能性としての仲介者、媒介の存在を重要視した。低級の神であり、神霊という日本語があてられることもあるダイモンである。いわゆるギリシア神話のオリュンポス12神のような神々は、人間的性格を持っていることが特徴的だったため、不倫や盗みなどもおかした。よって、善美なるものについての知を持っているはずの (6) やプラトンの神の概念とは相性が悪かったのだが、アプレイウスはそんなオリュンポス12神を、その中の主神 (10) 〔①ゼウス ②ヤハウェ ③アフラ＝マズダ ④アテン〕や、神託の神であり太陽神ともされるアポロンも低級の神であるダイモンなのだ、とすることで整合的に解釈しようとしたのである。

B ローマの属州だったシチリアは、ヴァンダル王国、次いで (1) 〔①西ゴート王国 ②東ゴート王国 ③フランク王国 ④ランゴバルド王国〕の支配を受けたが、ユスティニアヌス1世がイタリアに軍を派遣してこの王国を滅ぼすと、ビザンツ帝国の勢力下に復した。

イスラーム勢力が北アフリカに進出すると、シチリアも、沿岸部を中心に散発的な襲撃を受けるようになる。(2) 〔①5 ②7 ③9 ④11〕世紀になると、アッバース朝を宗主とするチュニジアのアグラブ朝が本格的な侵攻を開始した。翌世紀の初めにビザンツ軍は完全に駆逐され、以後、約2世紀の間、シチリアはイスラーム勢力の支配に服することになった。キリスト教徒やユダヤ教徒は、改宗を迫られることはなかったが、生活や行動に制限を受け、(3) 〔①ザカート ②ジズヤ ③ハラージュ ④ワクフ〕と呼ばれる人頭税を課された。シチリアには新たな農作物や農業・灌漑技術が導入され、北アフリカやイベリア半島との交易で繁栄した。

事態を急転させたのは、南イタリアに定住した (4) 〔①エトルリア人 ②ケルト人 ③スラヴ人 ④ノルマン人〕たちだった。当初は傭兵として活躍していた彼らは、戦功によって領地を獲得し、故郷から親族を迎えて、勢力を拡大していた。中でもアプーリア公ロベルト＝グイスカルドは、叙任権闘争の過程で皇帝軍に攻囲された教皇 (5) 〔①グレゴリウス1世 ②グレゴリウス7世 ③クレメンス5世 ④ユリウス2世〕を救出するなど、存在感を示した。彼の弟ルッジェーロは、イスラーム勢力間の不和に乗じてシチリアに侵攻し、首都パレルモを攻略してシチリア伯となった。彼は、教皇代行権を得てシチリアにローマのキリスト教を確立する一方で、旧来のビザンツやイスラームの慣習や制度を活用し、宗派を問わずに人材を宮廷や軍の要職に登用した。

(6) 〔①10 ②12 ③14 ④16〕世紀の前半、彼の後にシチリア伯を継いだルッジェーロ2世は、当時の教会の分裂を利用して対立教皇アナクレトゥス2世を強力に支援し、見返りに南イタリアを含むシチリア王国として王位を認めさせた。この対立教皇の死後には教皇インノケンティウス2世に和睦を迫り、改めて王位を承認させた。彼は北アフリカに支配を広げるだけでなく、第2回十字軍のさなかには東地中海のビザンツ領にも食指を伸ばした。この時代、多文化の交差路

だったパレルモは、イベリア半島の (7) 〔①グラナダ ②コインブラ ③トレド ④マドリッド〕と並んで、ギリシャやアラビアの著作が翻訳されて西欧に伝わる主たる拠点の一つとなった。

彼の孫グリエルモ2世は神聖ローマ皇帝フリードリヒ1世に対抗し、北イタリアの諸都市が結成した (8) 〔①カルマル同盟 ②神聖同盟 ③ライン同盟 ④ロンバルディア同盟〕を支援した。だが、同盟軍が勝利してひとまず抗争が終結した後には、父の異母妹に当たるコスタンツァと、皇帝の息子ハインリヒ6世との結婚を取り決めた。

グリエルモ2世の死後、ハインリヒ6世はこの結婚を口実にシチリアへと侵攻し、王位を奪った。ただ、彼は数年を経ずに没した。後を継いだのは、幼少のフリードリヒ2世である。彼は長じてドイツ王になり、さらには教皇グレゴリウス9世によって神聖ローマ皇帝に戴冠されるが、教皇との関係は緊迫していた。十字軍を実行するという約束を延引して破門された彼は、やむなくパレスチナに出征するが、武力には訴えず、(9) 〔①アイユーブ朝 ②後ウマイヤ朝 ③セルジューク朝 ④ファーティマ朝〕のスルタンとの交渉によってイエルサレムに入城した。シチリアへの帰国後、教皇や教皇派との抗争はさらに激化する。教皇インノケンティウス4世は皇帝の廃位を宣告し、彼への十字軍を呼びかけさえした。フリードリヒ2世はその争いの渦中に病死した。

教皇はフリードリヒ2世の血筋を排除しようと画策し、フランス王ルイ9世の弟、アンジュー伯シャルルをシチリア王に擁立した。彼は、戦争を経て名実とも国王になると、都をナポリに移し、シチリアに対しては強権的な姿勢を取った。シチリアの鬱積した不満は、「シチリアの晩禱」で爆発する。アンジュー家は追放され、(10) 〔①アラゴン ②ナバラ ③カスティリャ ④ポルトガル〕王ペドロ3世がシチリア王位を得た。その後のシチリアは、アンジュー家の下にとどまったナポリ王国との争いや、島内の貴族たちの内紛によって消耗し、次第に沈滞していった。

Ⅱ 次のA・Bの文章を読み、それぞれ(1)～(9)の設問について〔 〕内の語句から最も適切と思われるものを選び、その記号を解答欄にマークしなさい。〔解答用紙 マーク〕 (18点)

A 2025年、教皇フランシスコが逝去し、新たな教皇が誕生した。新教皇は自身の教皇名として、レオという名を選びレオ14世となった。レオという教皇名を耳にした時、歴史上様々な事件が思い出される。ここでは、過去にレオと名乗った教皇の事績をいくつか振り返ってみたい。

レオという教皇名の初代にあたり、5世紀中頃に在職したレオ1世は、教義の研究に力を注いでおり、彼の治世において(1)〔①カルケドン ②クレルモン ③エフェソス ④ニケーア〕公会議が開催された。(1)公会議では、神の子イエスにおいては、神性と人性が融合して一つであるとする(2)〔①知行合一 ②スーフイズム ③三位一体説 ④単性論〕が異端とされた。一方、レオ1世の時代は、ゲルマン民族の大移動の時期にあたる。この大移動の契機の一つといわれているのが、(3)〔①フン人 ②マジャール人 ③アヴァール人 ④ソグド人〕の西進である。(3)の王である(4)〔①オドアケル ②ユリアヌス ③テオドリック ④アッティラ〕は(5)〔①ヘースティングズ ②レヒフェルト ③イッソス ④カタラウヌム〕の戦いにおいてローマとゲルマン人の連合軍に敗れたが、その後もイタリアに侵入した(4)とレオ1世は交渉し、またイタリアを圧迫するゲルマン人部族とも交渉したともいわれている。これらの交渉は後代の伝説的な叙述によるとされるものだが、ローマの上層民や都市行政の代表者とともにレオ1世がこうした交渉に参加したと描かれたことから、彼がローマの都市行政に関与する立場であったと考えられていたことがうかがえる。

教皇レオ3世の話題に移ろう。彼と関わった有名な人物としては、在地の有力者を(6)〔①宮宰 ②伯 ③テマ ④巡察使〕に任じ、(6)の管区を設定し、(6)に軍事や裁判にも関与させ広大な支配領域の統治に協力させる一方、多くの聖職者を側近として登用していたカール大帝があげられる。レオ3世はカール大帝にローマ皇帝の冠を授けたことで知られる。世俗君主と教会権力の協力関係を象徴する出来事であった。

入学試験本部

令和8年度 入試問題訂正票

文学部 コア試験 科目 歴史総合＋世界史探究 の試験問題について、
訂正があります。

記

<u>6</u> ページ <u>15</u> 行目	
誤	正
サルデーニャ王国の <u>宰相</u>	サルデーニャ王国の <u>首相</u>

以 上

時代がくんだり、ルネサンスの時期に即位したメディチ家出身のレオ10世は、宗教改革の契機となるサン＝ピエトロ大聖堂改築のための贖宥状を発行したことで知られている。宗教面では、また、レオ10世は、フランス国王 (7)〔①アンリ4世 ②ルイ13世 ③フランソワ1世 ④シャルル7世〕との間で、フランス王にフランスにおける教会の支配を事実上委ねるという趣旨の内容を含む協約を結び、フランスの国家教会主義の承認ともいえる態度を示した。文化面では、若い時からメディチ家とのつながりを持っていたミケランジェロに同家関係の教会の装飾を依頼している。ミケランジェロはその後も教皇庁とのつながりを有し、のちに同じくメディチ家出身で即位した教皇クレメンス7世は、(8)〔①ハギア＝ソフィア聖堂 ②サンタ＝マリア大聖堂 ③サン＝ヴィターレ聖堂 ④システリーナ礼拝堂〕の大祭壇奥の「最後の審判」の制作を晩年のミケランジェロに注文することになる。

冒頭に述べた新教皇がレオという名を選んだのは、19世紀後半に即位したレオ13世を意識してのことと報道された。この時代は、レオ13世の前任者のピウス9世がサルデーニャ王国の宰相 (9)〔①カニング ②カヴール ③シュタイン ④クルップ〕と対決するなど、イタリア統一戦争と教皇庁との関係が緊迫していたのと同時に、近代社会にカトリック教会がどう向き合うか、についても教皇庁が考え続けていた時代であった。ピウス9世が保守色の濃い主張を繰り広げたのに対し、レオ13世は、労働問題、資本主義、社会主義に対する見解を含むレールム・ノヴァールムと呼ばれる社会回勅を発表し、カトリック教会が近代社会の問題に取り組む姿勢を打ち出した。レオという名は、21世紀の複雑な状況にカトリック教会がとる姿勢が社会から注目され問われている、という新教皇の自覚と決意のほどがうかがえる選択なのかもしれない。

B 唐末から宋までの期間は、中国史における大きな転換期とされるが、中国の北方においても様々な民族が興亡した。耶律阿保機は契丹（遼）を建て、(1)〔①ウイグル ②吐蕃 ③高句麗 ④渤海〕を滅ぼした後に南に向かい、936年に五代の(2)〔①後晋 ②後周 ③後唐 ④後梁〕から燕雲十六州を得た。一方、宋は燕雲十六州をめぐる契丹と一時緊張状態にあったが、結局澶淵の盟によって和平が成立し、宋から契丹へ毎年多額の銀や絹を贈ることなどが定められた。また西夏の勢力が増すと宋はこれに対しても毎年銀や絹などを贈ることとした。結局宋はその経済力によって平和を購っていたといってもよい。

その後、遼は女真族の王朝である金に滅ぼされ、金はさらに宋の都の開封を攻略して当時の宋の皇帝らを拉致し、皇帝の弟が南方に逃れて南宋を建てた。

モンゴルでは、1206年のクリルタイでテムジンがチンギス＝ハンとして即位して大モンゴル国を建てて東西に勢力を拡大し、例えば、西方ではイラン高原などで勢力をふるっていた(3)〔①サファヴィー朝 ②ブワイフ朝 ③ホラズム＝シャー朝 ④ガージャール朝〕を打ち破った。チンギス＝ハンの死後、彼の子や孫は遠征を継続し、その支配領域は空前の規模となった。ただ、その支配領域は一つの国であったわけではなく、キプチャク＝ハン国・チャガタイ＝ハン国や(4)〔①フレグ ②バトゥ ③オゴデイ ④モンケ〕の建てたイル＝ハン国などが、元（大元ウルス）のカアン（大ハン）の下で緩やかに連携してゆくものであった。

モンゴルの遠征はヨーロッパにまで及び、ワールシュタットの戦いではモンゴル軍がドイツ・ポーランド連合軍を破ったとされる。ヨーロッパからは度々モンゴルや元への訪問者が訪れたが、そのうち(5)〔①ルブルック ②モンテ＝コルヴィノ ③マルコ＝ポーロ ④プラノ＝カルピニ〕は大都に教会を建て、大都の初代大司教となった。

元末の中国では、白蓮教徒による(6)〔①赤眉の乱 ②黄巾の乱 ③紅巾の乱 ④黄巢の乱〕が起こり、その中で頭角をあらわした朱元璋は1368年に明を建てた。明が元の首都である大都をおさえると、元は北方に退いたが、その後もモンゴルは勢力を保ち、例えば16世紀にアルタン＝ハーンは度々明へ侵入した。彼はまた(7)〔①ツォンカパ ②ソンツェン＝ガンポ ③パクパ ④ダライ＝ラ

マ〕が開いたチベット仏教の黄帽派に帰依したことも知られている。

明では海外から銀が大量に流入するにつれて、銀が主要な通貨となっていた。その状況を反映し、16世紀には各種の税を銀でまとめて納める(8)〔①地丁銀制 ②両税法 ③一条鞭法 ④租調庸制〕が一部の地域で実施され、次第に拡大していった。

16世紀末以降、中国にはイエズス会の宣教師が次々と来航した。マテオ＝リッチは早期に中国を訪れた宣教師の中で特に著名な人物で、彼と(9)〔①『天工開物』 ②『崇禎曆書』 ③『皇輿全覧図』 ④『本草綱目』〕の編纂事業を指導した明の高官である徐光啓との交友はよく知られている。

Ⅲ 次の文章を読み、下記の設問(1)～(8)に答えなさい。〔解答用紙記述〕(16点)

紙が普及する以前に、中国において主な書写材料とされていたものとして竹簡や木簡がある。現存する竹簡・木簡の実物のうち最古のものは戦国時代前期のものであるが、竹簡・木簡は古くは殷代から存在していたと見られている。甲骨文字⁽¹⁾に見える「冊」の字は、竹片もしくは木片を並べて紐で結びつけ、「冊書」の形体にしたものをあらわす象形文字と考えられているからである。

近年、中国各地で竹簡や木簡の出土が相次いでいる。多くは古墓に副葬品として埋められていたものが中心である。その一例として、戦国時代中期の楚の墓から発掘された郭店楚簡を紹介しよう。郭店楚簡は儒家系の文献や『老子』が含まれていたことで注目を集めた。戦国時代は、諸子百家と呼ばれる様々な思想家たち⁽²⁾が活躍した時期とされるのとは裏腹に、秦代に行われた思想統制⁽³⁾や、秦末漢初の戦乱により多くの書籍が失われたため、詳しい思想内容が分からない諸子が少なくなく、思想史の展開についても不明な点が多い。郭店楚簡のような戦国時代の竹簡・木簡の出現は、こうした思想史の空白を埋めるものとして期待されている。

竹簡・木簡のなかには当時の政治・法制に関わる史料も多い。湖北省の古墓から発掘された睡虎地秦簡には、戦国時代後期の秦の法律が含まれていた。秦の統治⁽⁴⁾については、厳格な法による苛酷な支配ということが『史記』などに記されている反面、その法が具体的にどのようなものだったのかは、今日にまで史料が伝わっていないためによく分かっていなかった。こうした秦の法律の発見により、我々は秦の法治について、その実態により肉薄することが可能となったわけである。また、秦だけでなく、前漢時代の古墓からも法律の出土例がいくつかある。例えば、張家山漢簡『二年律令』は前漢初期の呂后二年⁽⁵⁾のものと目される律令である。先述の通り、『史記』では秦の法がしばしば苛酷なものとして批判されているが、『二年律令』を見る限り、前漢王朝は実際には秦の律令から多くの要素を継承していたことがうかがえる。

古墓のほかに、竹簡・木簡は地方行政機構の遺跡からも出土することがある。例えば、里耶秦簡は秦の洞庭郡遷陵県の官衙の古井戸から出土しているし、20世紀初頭にスタインによって発見された敦煌漢簡⁽⁶⁾⁽⁷⁾は、前漢後期以降に辺境防衛のため置

かれた見張り台の遺跡からの出土事例である。これらは廃棄された当時の行政文書であり、同時代の文書行政の実態を知ることができる貴重な史料となる。こうした行政文書の出土例は秦漢ばかりか、三国・西晋時代のものもあることには注意を払うべきであろう。一般的には、後漢時代の製紙法の改良以降、紙が急速に普及していったと考えられている。しかし、三国時代の呉の竹簡・木簡である長沙走馬楼呉簡⁽⁸⁾の存在は、三国時代になっても大量の竹簡・木簡が行政には欠かせないものであったことを物語る。そもそも竹簡・木簡が紙に置き換わっていった理由として、かさばる・重い・不便などが挙げられるが、竹簡・木簡は表面を削って字を修正したり、簡を抜き替えて修正・並び替えをしたり、末尾に新しく簡を加えて内容を次々と付け足すことが可能であったりと、実は竹簡・木簡ならではの利便性を有していた。このような利便性を背景に、修正の必要のない完結した内容を持つ書籍や書信が早々と紙に置き換わる一方で、修正・追加を前提とすることが多い行政文書や簿籍については、竹簡・木簡の使用がしばらく継続されたのではないかということも指摘されている。

〔設問〕

- (1) 下線部(1)について、甲骨文字は1899年に王懿榮という人物によって発見されたとされている。彼はその翌年に清朝が列強に宣戦を布告すると団練大臣に任じられ北京防衛にあたったが、8カ国連合軍に敗れ、入城・占領を許した。王はその責任をとり、自殺した。この戦争の名を答えなさい。
- (2) 下線部(2)について、諸子百家のうち、陰陽家という学派の代表的人物で、陰陽五行説を大成した人物の名を答えなさい。
- (3) 下線部(3)について、秦の始皇帝が行った思想統制のうち、多くの学者を穴埋めにしたできごとと並び称され、書籍の散逸に大きな影響を及ぼしたと考えられる政策の名を、漢字2字で答えなさい。

(4) 下線部(4)について、秦はもともと戦国時代の諸国のなかでは西寄りに位置し、国力もあまり振るわなかったが、戦国時代中期に変法と呼ばれる改革を行い、富国強兵・中央集権化を進めた結果、強国となった。この改革を行った人物の名を答えなさい。

(5) 下線部(5)について、呂后は前漢の高祖劉邦の皇后で、その死後実権を握った。その治世は、「呂后二年」のように、皇帝の在位年と同様に呼ばれるが、実際に皇帝に即位したわけではない。一方、中国史上ではただ一人、女性で皇帝に即位した人物がいる。その人物の名を答えなさい。

(6) 下線部(6)について、19世紀末から20世紀初頭にはヨーロッパ人を中心に、多くの探検家・学者が西域の調査を行い、木簡の発見を含む様々な成果を残している。その中で、楼蘭の遺跡の発見やロプノール湖の周期的移動の確認などの成果をあげたスウェーデンの探検家・学者の名を答えなさい。

(7) 下線部(7)について、敦煌では「敦煌文書」と総称される膨大な古写本類が発見され、スタインはその一部をイギリスに持ち帰っている。この古写本類が発見された石窟寺院の名を答えなさい。

(8) 下線部(8)について、この国を建てた人物の名を答えなさい。

Ⅳ 以下の各文章1～4にはそれぞれ明白な誤りが一つずつ含まれている。誤りの語句を解答用紙所定のA欄に、それに代わるべき正しい語句をB欄に記入しなさい。また各文章1～4に付された設問(1)～(4)の答えを解答用紙所定の欄に記入しなさい。〔解答用紙記述〕(16点)

1. 約250年以上にわたる元首政の時代は235年に終わり、これ以降約50年余りの時代を「軍人皇帝時代」と呼ぶ。この時代には、各地の軍隊が自らの指揮官を皇帝に擁立して内乱を起こし、多くの軍人出身、それも一介の兵士から身を起こした皇帝が多数出現したのである。また、この時代は「3世紀の危機」の時代とも呼ばれ、その危機の原因としては、各地の軍隊の反乱と並んで、ローマ帝国の外からアケメネス朝ペルシアやゲルマン人の諸部族の大規模な侵入が挙げられる。それらに、対外危機に起因する軍事費の増大、帝国財政の悪化、貨幣改鑄に伴う破滅的なインフレーションが続いたのである。284年に権力を掌握したディオクレティアヌス帝は、帝国の混乱を鎮めるために体制を抜本的に改革して、ドミナトゥスを樹立した。さらに彼はキリスト教とマニ教を弾圧したことでも知られる。

設問(1) ローマ帝政後期には、外敵に脅かされる広大なローマ帝国を単独の皇帝で統治することは困難だと考えられ、2人の正帝と2人の副帝で分担して統治する体制が導入された。この統治体制を何と呼ぶか、カタカナで答えなさい。

2. 唐の代表的な文学者・思想家としては、韓愈があげられる。彼は、四六駢儷体を批判して漢以前の文体に注目し、古文の復興を唱えた。また詩の方面では、同時代の詩人で「長恨歌」や「琵琶行」などの作者として知られる蘇軾と並び称された。思想においては、儒家思想を重んじ、堯から数え孟子にいたる系統を正統なものとした。彼はそうした思想的立場から、仏教などの宗教を排撃した。

設問(2) 韓愈は道教に対して排撃的な態度をとった。道教は、後漢末のある宗教結社を源流の一つに持つとされる。張陵を開祖とするその宗教結社の名称を答えなさい。

3. 広州は、海上交易の拠点として栄えた海港都市である。唐代にはムスリム商人が来航した。そうした海上交易を管轄するための官庁として、市舶司が置かれ、宋代にはさらなる貿易の発展により、泉州や明州などにも設置された。清代には、康熙帝がヨーロッパ船の来航を広州1港に限定し、行商と呼ばれる特権商人団体に貿易を管理させたが、その後も貿易量は増大していった。

設問(3) 清はアヘン戦争の講和条約を締結し、それにより広州など5港の開港を認めた。この条約の名称を答えなさい。

4. 産業革命の中心は機械による生産方式への転換であり、最初に飛躍的発展を遂げたのは綿織物産業であった。1733年にジョン＝ケイが発明した飛び杼は織布の効率を高め、次いで1764年頃にはハーグリーブズのジェニー紡績機、1769年にステイーヴンソンの水力紡績機が登場した。これらの技術革新により、多くの手工業が機械化され、労働の形態が変化した。

設問(4) イギリスでは、機械の改良によって失業した熟練工たちが、機械や工場に敵意を持ち機械破壊を行った。カタカナを含む表記で、この運動の名を答えなさい。

V 次の主題A・Bについて、与えられたキーワードをすべて用い、200字以内で歴史的に論述しなさい。なおキーワードには下線を付しなさい。句読点は1マスに1つずつ、数字は1マスに2字まで入れなさい。〔解答用紙記述〕(30点)

A イギリスの対清貿易赤字・清朝財政悪化問題とアヘン戦争との関係について論述しなさい。

キーワード：茶 アヘン 銀流出

B 前7世紀から前6世紀までの古代ギリシアの都市国家アテネの政治の変遷について論述しなさい。

キーワード：成文法 財産政治 陶片追放